

2025年3月期（24年度）及び 2026年3月期（25年度）の業績説明



2025年4月24日



石塚硝子株式会社

ISHIZUKA GLASS Co., Ltd.

1. 2025年3月期（24年度）決算内容

- 連結業績ハイライト
- セグメント別売上高、営業利益
- 連結貸借対照表
- 連結キャッシュ・フロー

2. 2026年3月期（25年度）業績予想について

- 通期業績予想
- 連結業績推移
- セグメント別売上高

3. トピック

- 工場排熱を利用したコーヒー栽培への挑戦
～未活用資源の価値化と持続可能な社会への貢献～

連結業績ハイライト

- ✓ 売上高は、ガラスびん事業、ハウスウェア関連事業及びプラスチック容器関連事業で減収（PP.5-6）。
- ✓ 利益については、減収に加えてプラスチック容器関連事業新工場の立ち上げ費用が先行して発生したこと、ガラスびん関連事業の溶解炉定期更新に伴う生産停止の影響などにより、各利益ともに減益。**当期を最終年度とする2024年度中期経営計画「変化するスピードに負けない」の重点ポイントの一つである連結営業利益目標の35億円を達成。**
- ✓ 配当については、配当方針と業績状況を総合的に勘案して、**予想から5円増配の1株当たり65円**とさせていただくことを本日開催の取締役会で決定いたしました。

(単位：百万円)

項目	2023/3月期 (22年度) 実績	2024/3月期 (23年度) 実績	2025/3月期 (24年度) 実績	対前期比		対前々期比	
				増減	増減率	増減	増減率
売上高	56,749	57,882	55,994	△1,888	△3.3%	△754	△1.3%
営業利益	2,210	5,456	3,849	△1,607	△29.5%	1,638	74.1%
経常利益	2,317	5,362	3,713	△1,649	△30.8%	1,396	60.3%
当期純利益 ※	252	4,707	3,088	△1,619	△34.4%	2,836	1,124.5%
配当金	35円	60円	65円	5円	—	30円	—

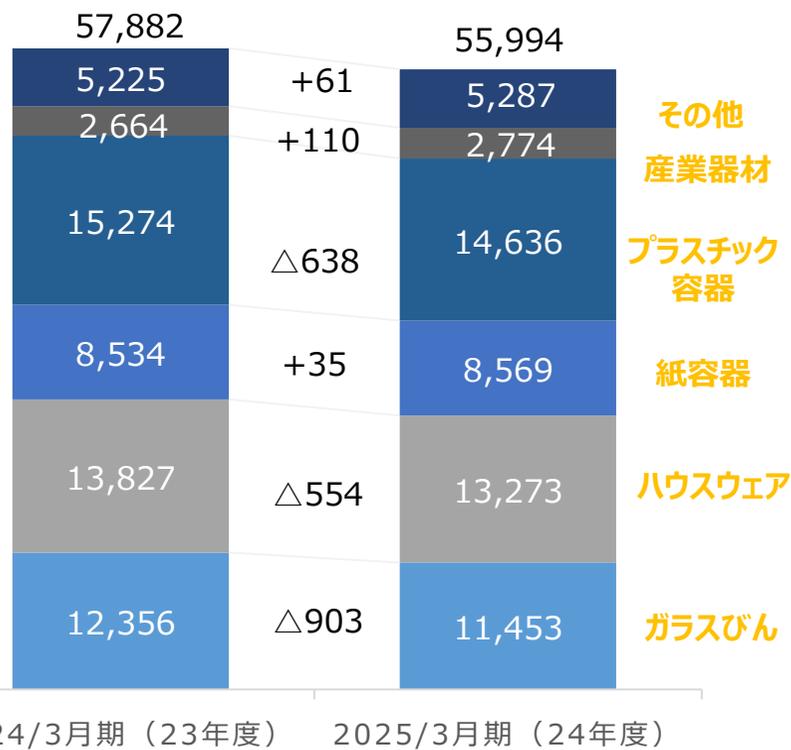
※ 親会社株主に帰属する当期純利益

セグメント別売上高

売上高

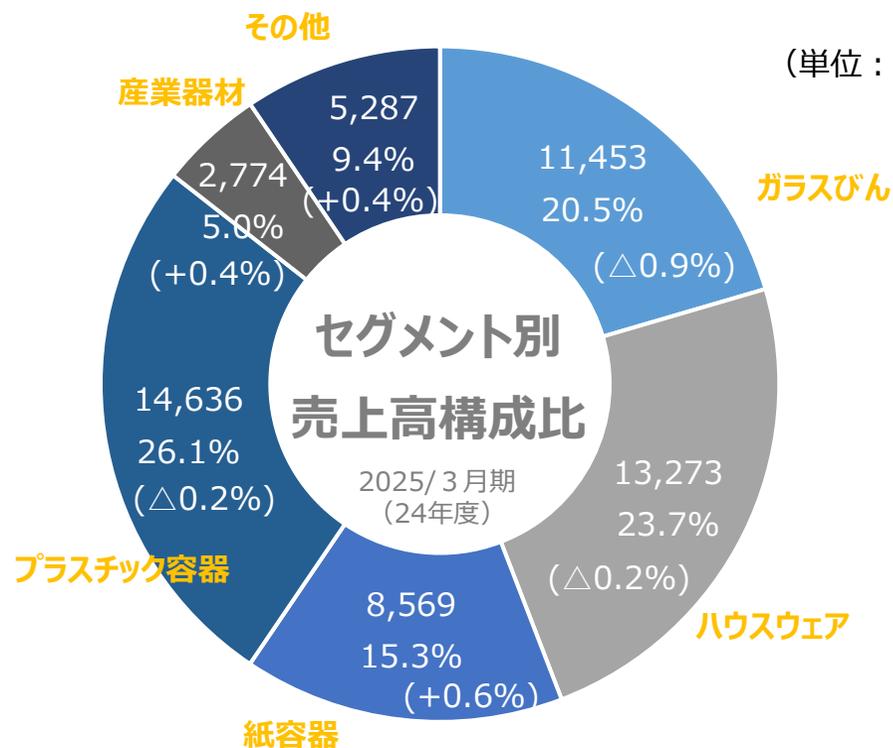
- ガラスびん関連
- 紙容器関連
- 産業器材関連
- ハウスウェア関連
- プラスチック容器関連
- その他

(単位：百万円)



- ガラスびん関連
- 紙容器関連
- 産業器材関連
- ハウスウェア関連
- プラスチック容器関連
- その他

(単位：百万円)

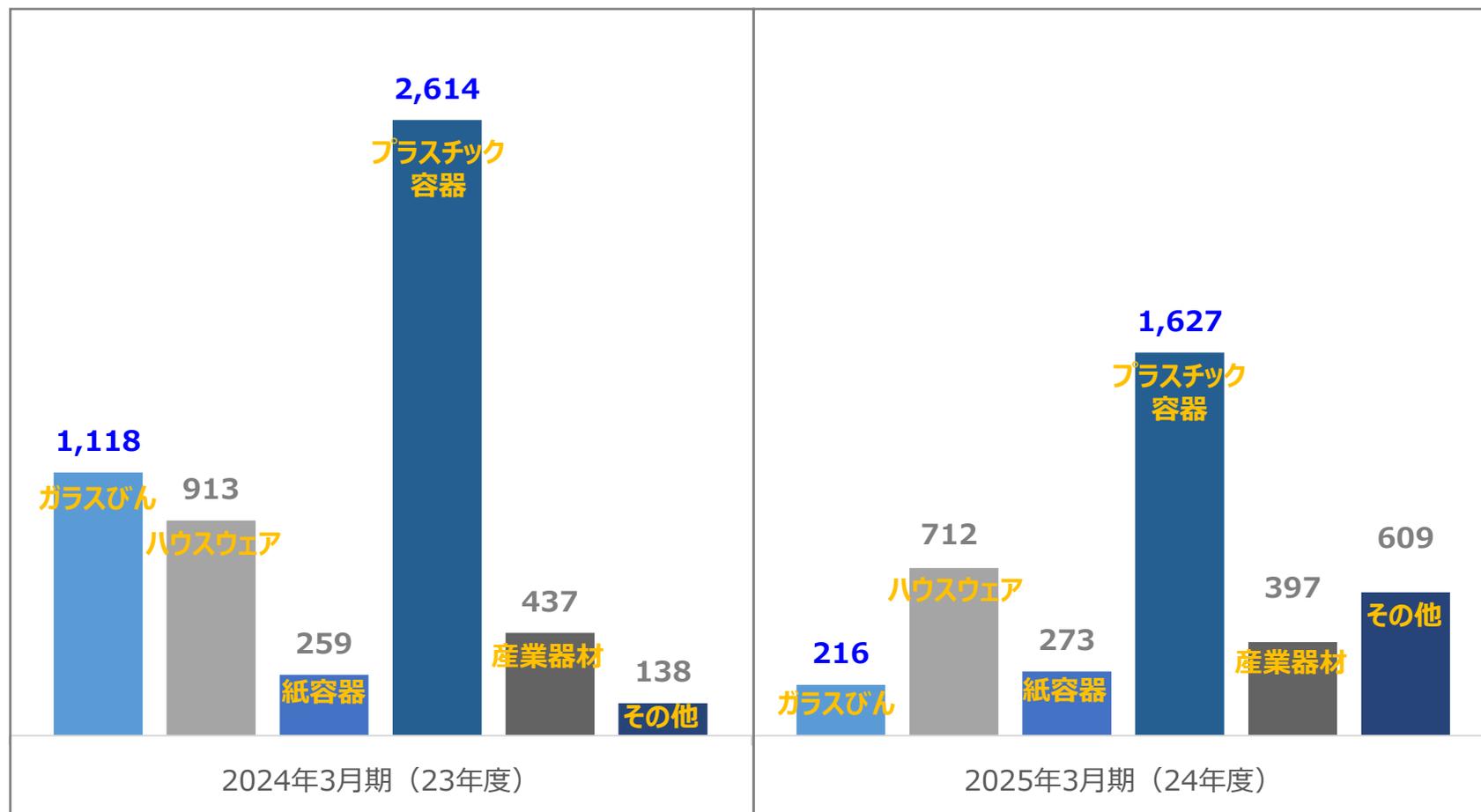


() 構成比率前期増減

セグメント別営業利益

(単位：百万円)

■ ガラスびん関連 ■ ハウスウェア関連 ■ 紙容器関連 ■ プラスチック容器関連 ■ 産業器材関連 ■ その他



セグメント別売上高①

ガラスびん関連事業

売上高**11,453**百万円（前期比**7.3%**減）

- ✓ 諸資材価格の高騰に対する販売価格改定の取り組みを進めましたが、姫路工場の操業停止に伴い出荷総量が減少



ハウスウェア関連事業

売上高**13,273**百万円（前期比**4.0%**減）

- ✓ ガラス食器は、一般市場向けの販売が落ち込みましたが、企業向けの景品受注が好調であったことにより、全体としては前期並み
- ✓ 陶磁器は、海外の昨年までのアフターコロナ特需が落ち着く



セグメント別売上高②

紙容器関連事業

売上高8,569百万円（前期比0.4%増）

- ✓ 主要ユーザーからの受注数量が落ち込んだことや充填機販売がありませんでしたが、拡販活動に加えて更なる円安進行や原紙調達コスト高騰に対する販売価格改定の取り組みを実施



プラスチック容器関連事業

売上高14,636百万円（前期比4.2%減）

- ✓ 新たに建設した姫路工場からの販売も加わり主要ユーザーからの受注が堅調に推移しましたが、費用の減少に連動した販売単価の見直しもあり減収



セグメント別売上高③

産業器材関連事業

売上高2,774百万円（前期比4.1%増）

- ✓ 原材料価格の高騰に伴う価格改定などにより増収



その他事業

売上高5,287百万円（前期比1.2%増）

- ✓ 抗菌剤は、コロナ禍前の出荷水準に戻りつつあることや原材料価格の高騰に伴う価格改定などにより増収



チューブ筒内に植物由来の香料が配合されたフィルムを使用しています。

連結貸借対照表

連結貸借対照表の主な変動要因

(単位：百万円)

	2024/3月期 (23年度)	2025/3月期 (24年度)	増減額	増減率 (%)	主な増減要因
現金及び預金	3,783	4,905	1,122	29.7	
売上債権 ※	19,913	20,319	406	2.0	
商品及び製品	9,966	9,808	△157	△1.6	
その他	10,785	12,973	2,188	20.3	未収金+1,330
流動資産合計	44,447	48,008	3,560	8.0	
有形固定資産合計	40,071	44,495	4,423	11.0	プラスチック容器関連事業の設備投資
その他資産合計	7,595	7,913	317	4.2	
固定資産等合計	47,667	52,409	4,741	9.9	
資産合計	92,115	100,417	8,302	9.0	※ 受取手形、売掛金及び電子記録債権の合計
支払手形及び買掛金	10,998	11,523	524	4.8	
借入金、社債、リース債務	30,656	29,472	△1,184	△3.9	
未払金	4,735	10,641	5,905	124.7	設備投資に係る割賦取引による増加
その他	13,374	13,448	74	0.6	
負債合計	59,765	65,085	5,320	8.9	
株主資本合計	22,195	25,063	2,867	12.9	利益剰余金の増加
その他の包括利益累計額合計	8,746	8,849	103	1.2	
非支配株主持分	1,407	1,419	11	0.8	
純資産合計	32,350	35,332	2,982	9.2	自己資本比率33.8%(前期末比+0.2%)
負債及び純資産合計	92,115	100,417	8,302	9.0	

連結キャッシュ・フロー

連結キャッシュ・フローの主な変動要因

(単位：百万円)

	2024/3月期 (23年度)	2025/3月期 (24年度)	増減額	主な増減要因
税金等調整前当期純利益	5,850	3,713	△2,137	
減価償却費	3,073	3,961	887	
運転資本の増減額 (△は増加) ※	△3,074	242	3,316	売上債権の資金化実施
法人税等の支払額	△175	△762	△587	
その他	29	14	△15	
営業活動によるCF	5,704	7,169	1,465	※ 売上債権の増減額、棚卸資産の増減及び仕入債務の増減額の合計
有形固定資産の取得による支出	△8,023	△8,490	△188	プラスチック容器関連事業の設備投資
解体撤去費用の支出	△787	△40	747	
その他	306	△26	△333	前期は連結子会社株式の売却収入を計上
投資活動によるCF	△8,504	△8,561	△57	
短期借入の増減額 (△は減少)	△1,496	△100	1,396	
長期借入・社債の発行による収入	4,918	2,180	△2,738	
長期借入の返済・社債の償還による支出	△2,110	△3,220	△1,110	
セール・アンド・割賦バック等による収入	930	5,918	4,988	設備投資に係る割賦バック収入
リース債務の返済による支出	△1,169	△833	336	
長期未払金の返済による支出	△195	△1,289	△1,093	設備投資に係る設備代金の支払増加
その他	△412	△277	135	
財務活動によるCF	463	2,377	1,914	
現金及び現金同等物	3,778	4,871	1,092	

説明内容

1. 2025年3月期（24年度）決算内容

- 連結業績ハイライト
- セグメント別売上高、営業利益
- 連結貸借対照表
- 連結キャッシュ・フロー

2. 2026年3月期（25年度）業績予想について

- 通期業績予想
- 連結業績推移
- セグメント別売上高

3. トピック

- 工場排熱を利用したコーヒー栽培への挑戦
～未活用資源の価値化と持続可能な社会への貢献～

通期業績予想

- ✓ **売上高60,000百万円、営業利益3,800百万円、親会社株主に帰属する当期純利益2,350百万円を予想。**
 - 2026年3月期（25年度）は、売上高はハウスウェア関連事業やその他事業の抗菌剤等の海外市場に一部陰りが見られるものの、前期に稼働を開始したプラスチック容器関連事業のPETボトル用プリフォーム新工場の出荷増を見込むほか、その他事業のパウチ飲料充填事業の操業開始効果により増収を計画。
 - 利益については、増収効果に加えてガラスびん事業の溶解炉定期更新工事完了による生産増が見込まれるが、人件費や諸資材価格の上昇影響もあり前期並みの営業利益を予想。
- ✓ **配当については、2025/3月期比で当期純利益は減少する見通しであるが、安定的な配当の継続と自己資本の充実並びに財務体質の強化などを総合的に勘案し、前期と同じ1株当たり65円を予想。**

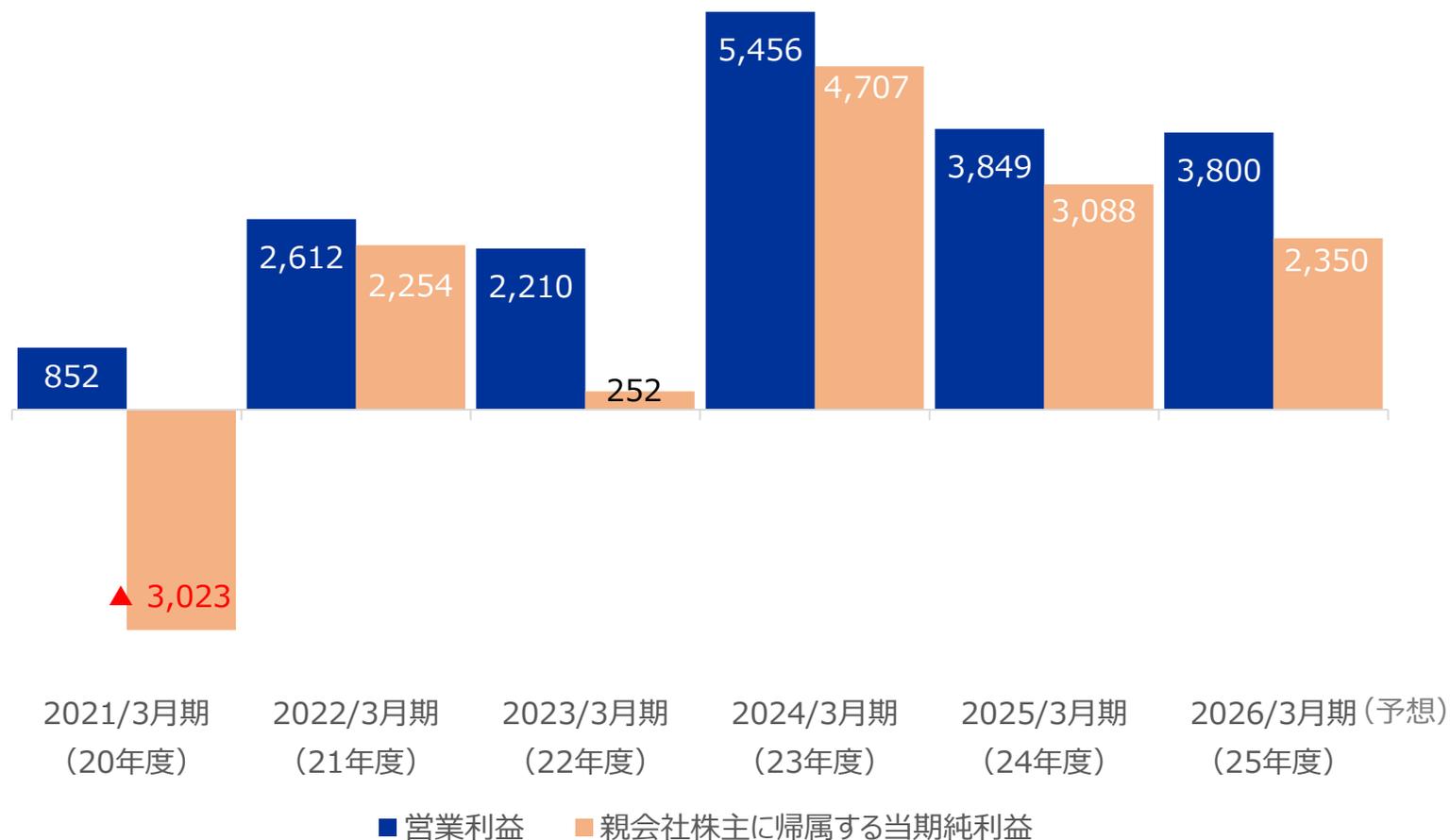
（単位：百万円）

項目	2024/3月期 (23年度) 実績	2025/3月期 (24年度) 実績	2026/3月期 (25年度) 予想	対前期比		対前々期比	
				増減	増減率	増減	増減率
売上高	57,882	55,994	60,000	4,005	7.2%	2,117	3.7%
営業利益	5,456	3,849	3,800	△49	△1.3%	△1,656	△30.4%
経常利益	5,362	3,713	3,500	△213	△5.8%	△1,862	△34.7%
当期純利益 ※	4,707	3,088	2,350	△738	△23.9%	△2,357	△50.1%
配当金	60円	65円	65円	—	—	5円	—

※ 親会社株主に帰属する当期純利益

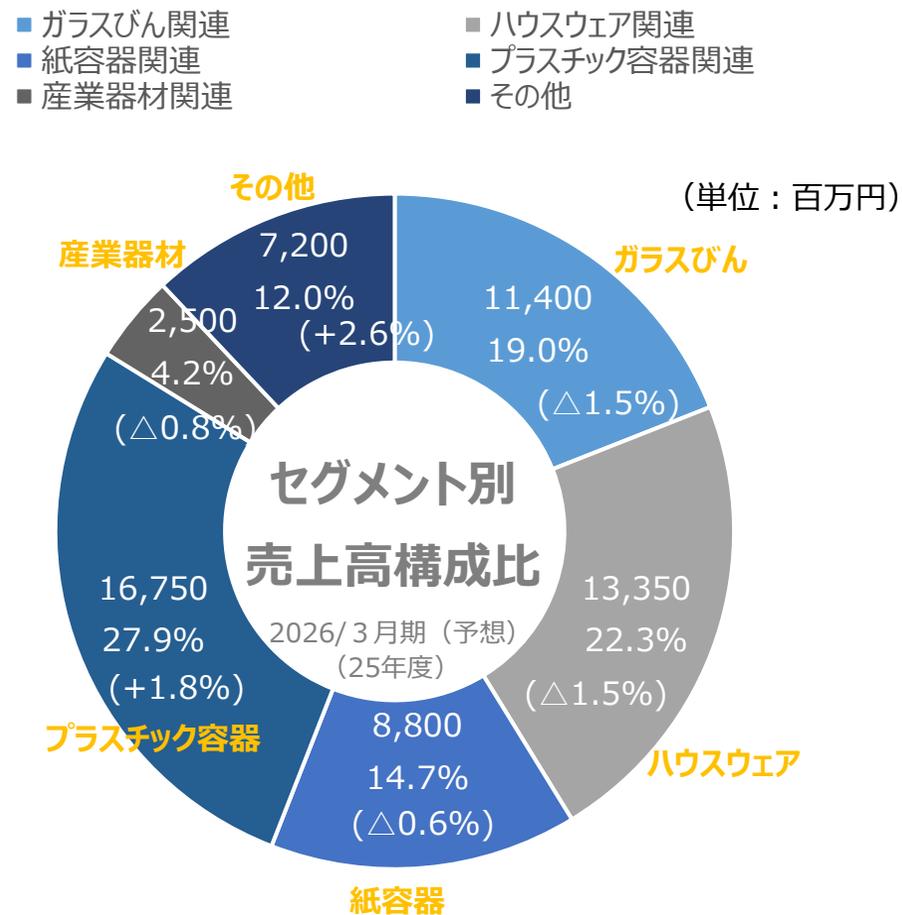
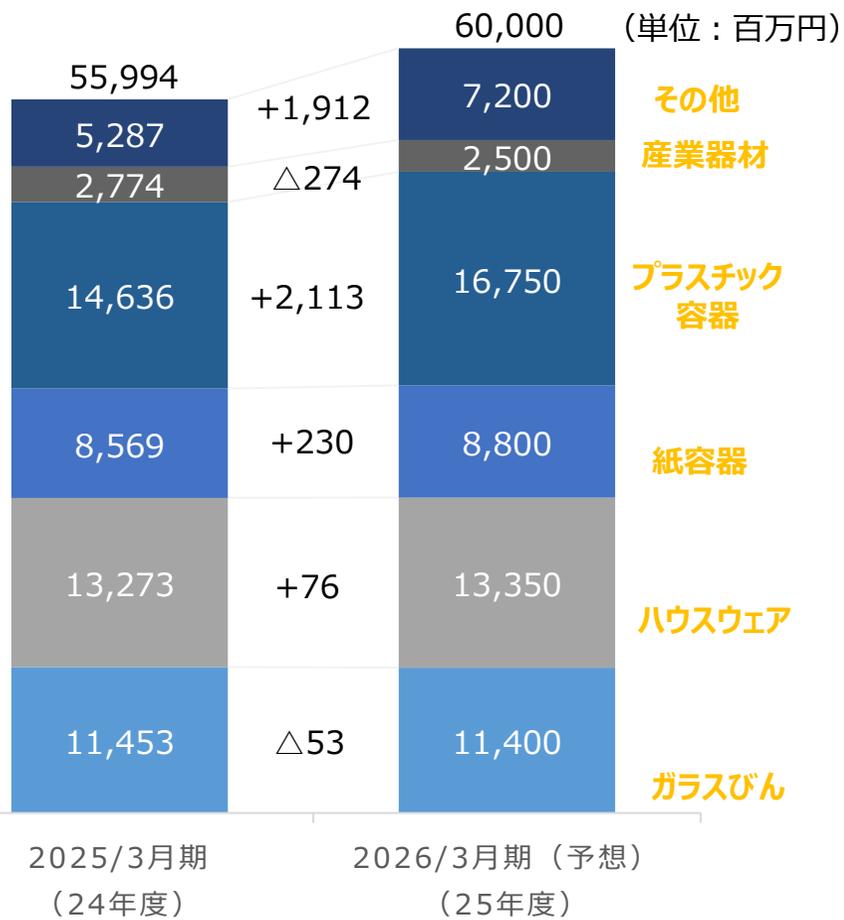
営業利益及び 親会社株主に帰属する当期純利益

(単位：百万円)



セグメント別売上高 (予想)

- ガラスびん関連
- 紙容器関連
- 産業器材関連
- ハウスウェア関連
- プラスチック容器関連
- その他



() 構成比率前期増減

説明内容

1. 2025年3月期（24年度）決算内容

- 連結業績ハイライト
- セグメント別売上高、営業利益
- 連結貸借対照表
- 連結キャッシュ・フロー

2. 2026年3月期（25年度）業績予想について

- 通期業績予想
- 連結業績推移
- セグメント別売上高

3. トピック

- **工場排熱を利用したコーヒー栽培への挑戦**
～未活用資源の価値化と持続可能な社会への貢献～

工場排熱を利用したコーヒー栽培への挑戦 ～未活用資源の価値化と持続可能な社会への貢献～

1. 目的

- ・ ガラス製造時の **未活用排熱**（約300℃）を有効利用

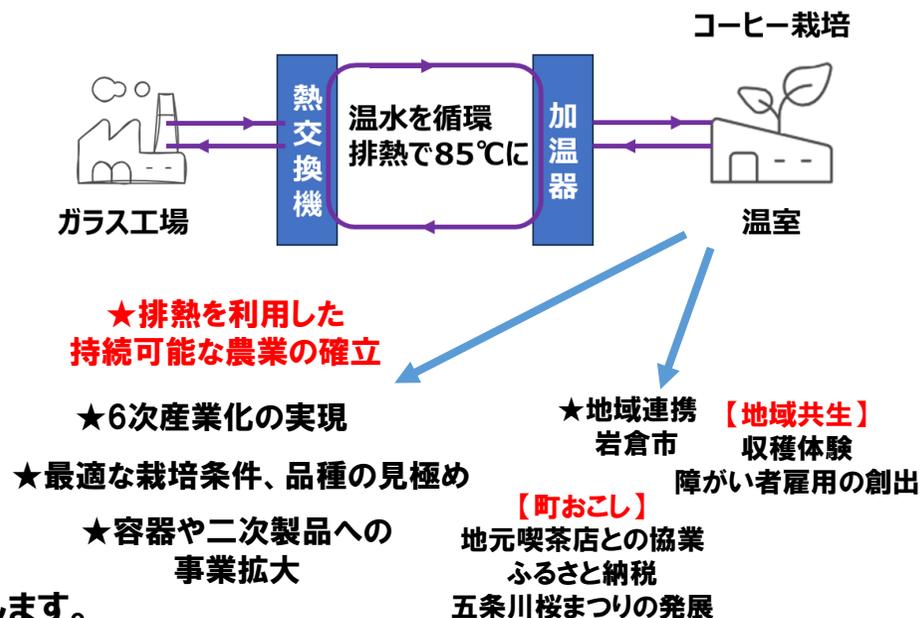
2. 取り組み内容

- ・ **未活用**の排熱を利用した温室でコーヒーの試験栽培を開始（2025年3月～、2026年6月頃の初収穫、試飲会をめざす）
- ・ **3年間で技術・栽培条件・事業性を検証**
 - なぜコーヒーなのか？
野菜や果物と異なり旬が無く通年販売が可能。生豆から加工すれば長期間の保管ができ、商業的に安定した扱いが可能のため

3. めざす姿

- ・ 排熱利用による持続可能な**営農モデル**の確立
- ・ **SDGsへの貢献**（エネルギーの**有効活用**、気候変動対策等）
- ・ 将来的な **地域社会との連携** も視野に

⇒ 本挑戦を通じ、新たな価値の創造と企業価値の向上をめざします。



本資料についての留意事項

- 本資料は金融商品取引法上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 本資料に記載されている将来の予測等は現時点で入手された情報に基づくものであり、市況、競業状況等、多くの不確実な要因による影響を受けます。
- 本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控えくださいますようお願いいたします。
- 本資料利用の結果生じた、いかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。